

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：31303

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25770112

研究課題名(和文) センセーション小説における転覆と女性主導のプロットの研究

研究課題名(英文) A Study on the Subversive Plots of Women's Desire in Sensation Fiction

研究代表者

鈴木 淳 (SUZUKI, Jun)

東北工業大学・公私立大学の部局等・准教授

研究者番号：10552755

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、Wilkie CollinsやMary Elizabeth Braddon、そしてThomas Hardyのテキストを分析することで、従来から指摘されてきたセンセーション小説テキストにおける「物語の秩序の転覆」の原因が、一見すると秩序を達成している男性の物語の中で、実際には自らの「願望」を達成している女性の物語プロットにあることを明らかにした。このテキストに存在する「女性の願望の成就」により、結果的に男性の物語の権威は崩されることになる。同様のことが、ジェンダーだけでなく階級においても起きている。

研究成果の概要(英文)：In this study, by analyzing texts by Wilkie Collins, Mary Elizabeth Braddon, and Thomas Hardy, I have revealed that the so-called "subversive character" of sensation fiction lies in the fact that female characters can actually achieve their own desires in the texts where male protagonists are often judged to control women and accomplish their narrative authority. The completion of women's desires in the oppressive male texts subverts the male authority. We can also see this kind of subversion demonstrated in class relationships.

研究分野：人文学

キーワード：センセーション小説 プロット 女性 願望 ジェンダー 階級

1. 研究開始当初の背景

今回のセンセーション小説研究を開始した当初は、丁度センセーション小説についての研究が海外でも活発になされていた頃であり、帝国主義や人種の問題など様々な観点からセンセーション小説を論じた多くの研究書が出版されていた。だが、そのような中で、センセーション小説は「conservative(保守的)なのか subversive(反体制的)なのか」という問題に関しては、結論が出ていない状態であった。したがって、本研究では、テキスト構造の分析を通して、男性の物語を描くテキストに同時に存在する「女性の願望のプロット」に注目し、さらに、今度はそれをジェンダーおよび階級という社会的および文化的な観点から分析することで、センセーション小説の subversive な性格を明らかにしようとした。

その際、これまで論じられてきた「男性ヒーローの道徳的秩序の物語」ではなく、むしろ、テキストには消すことのできない不安が残ることを指摘し、それが、男性が抑え込もうとしていた「女性の願望のプロット」によるものであることを明らかにしようとした。

研究計画としては、ヴィクトリア朝中期の代表的なセンセーション小説作家として男性作家 Wilkie Collins、そして、女性作家 Mary Elizabeth Braddon のそれぞれの代表的作品を扱うことにした。また、センセーション小説というジャンルがどのように次の世代に影響しているかを調べるために、Thomas Hardy の小説テキストに注目し、ジェンダーとプロットという観点から分析することにした。

2. 研究の目的

(1) Wilkie Collins のセンセーション小説テキストにおいて描かれる「男性の成長物語」が、実際には「女性の願望を描く物語プロット」によって達成されていることを明らかにすることで、そこに男性の物語の権威の転覆を見る。

(2) Mary Elizabeth Braddon のセンセーション小説テキストにおけるジェントルマン階級の男性の物語権威の転覆が、女性の願望のプロットだけでなく、下層階級の女性や男性の願望のプロットによっても起きていることを確認する。

(3) Thomas Hardy のセンセーション小説テキストを分析することで、テキストの物語が男性ではなく、主に女性の願望のプロットによって動かされていることを確認し、そこにセンセーション小説の大きな特徴の一つを見る。さらには、女性同士の絆が男性の秩序の物語を達成していることを確認する。

3. 研究の方法

(1) センセーション小説について、従来の

「男性主人公の成長物語」という読みに対して、実はそれ自体が同時にテキストに存在する「女性の願望のプロットによって導かれている」ということを、まずは Collins と Hardy のテキストにおける男性と女性の物語プロットとの比較を通して行った。

その研究では、最初に、主に Hardy の中期に書かれたテキストについて分析を行った。その際、Peter Brooks の *Reading for the Plot* で論じられている「プロット」に関する理論を援用しながら、テキストに存在する「男性の野心のプロット」だけでなく、野心に関する「女性のプロット」(Brooks 39)に注目することで、表向きのテキストの物語に隠れているもう一つの物語の流れを明らかにすることにした。

また、上記の内容をさらに発展させた、テキストを動かす「女性の願望のプロット」研究を、次は主に Collins のテキストに登場する女性キャラクターたちに焦点を当てて分析を行い、同様に、センセーション小説テキストにおける男性の物語を主導する女性のリベンジやセクシュアリティなどのプロットの存在を明らかにした。

<引用文献>

Brooks, Peter. *Reading for the Plot: Design and Intention in Narrative*. 1984. Cambridge: Harvard University Press, 1992. Print.

(2) Braddon のテキストについての研究では、男性と女性という「ジェンダー」だけでなく、上流、中産、下層という「階級」という観点からも、テキストに存在する主人公男性以外の「願望のプロット」に焦点を当てて分析することで、センセーション小説テキストでは、主人公男性の物語を成り立たせているのが全くそれとは無関係の登場人物たちの願望または欲望のプロットであり、結果的に、主人公男性の物語の道徳的権威が崩されていることを明らかにした。

その際、Braddon だけでなく、Hardy のテキストと比較することで、センセーション小説のテキストに見られる「主人公の物語プロット」とそれを成り立たせている「他者の願望の物語プロット」という構造が決して一人の作家に限られる特別なものではないことを明らかにした。

(3) それまでの研究期間に行った研究内容をもとにしながら、ヴィクトリア朝中期のセンセーション小説のテーマがその後の時代にどのように発展していくかを、Collins の影響を受けたとされる Hardy の初期のセンセーション小説テキストに存在する「女性の願望のプロット」を中心に、研究ノートを作成しながら分析した。

その際には、テキストに登場する各女性キャラクターの行動や願望に焦点を当てて、男

性の物語プロットの進行をどのように阻止しているか、また、逆に、どのようにしてテキストの物語の秩序を成り立たせているかを分析した。その際、テキストで現れる女性同士の絆にも注目することで、最終的に秩序に落ち着くとされるテキストを動かしているのが果たして男性なのかどうかを分析した。

4. 研究成果

(1) 始めに、Collins のテキストと Hardy の中期のテキストとの比較研究を行い、そして次に、テキストに登場するさまざまな女性キャラクターに焦点を当てて Collins のテキストを単独で分析することにより、最終的には、センセーション小説の大きな特徴の一つとして、テキストに男性の物語プロットと同時に存在し、せめぎ合う「女性の願望のプロット」を明らかにすることができた。

Collins と Hardy の両方のテキストにおいて、テキストの表面で語られる男性主人公の物語は、実際には、テキストで同時に起こっている「女性の願望の物語プロット」によって形成されていて、その結果、その物語の道徳的権威が崩されていることが分かった。

(2) Braddon のテキストに関しては、Hardy の後期テキストとの比較を通して考察することで、主人公の道徳的な物語（成長物語や悲劇）が、テキストで同時に進行している他者のリベンジの欲求や経済的欲望の物語プロットによって達成されていることが確認できた。その際、ジェンダーだけでなく、階級というテーマに注目することで、これまで脇役であると思われていた下層階級のキャラクターが、実際には主人公であるジェントルマン階級のヒーローの成長物語を構築しているということが明らかになった。それにより、結果的に、テキストで語られたジェントルマン男性の道徳的物語の権威は崩されることになる。

また、Hardy のテキストに関しても、これまでヒロインの悲劇は、運命や偶然といった議論がなされてきたが、それを「他者の経済的欲望の物語プロット」という視点から考慮し直すことで、その悲劇の物語自体の道徳的権威を崩すことになった。

(3) Hardy の初期のセンセーション小説テキストに関しては、テキストに存在する女性の願望、さらには女性の好奇心や想像力によるそれぞれの物語プロットが、男性が意図する秩序の物語に対して新たにセンセーション小説の物語プロットを動かす力の一つであることが分かった。この研究内容については、今後、成果を口頭発表や論文として形にする予定である。

さらには、今後の展望としては、センセーション小説がどのような性質や構造をしているかということ、ヴィクトリア朝だけで

なく、異なる時代、また小説以外のジャンルを通して分析する必要があることが分かった。その際には、今回の研究で明らかになった「女性の願望のプロット」がどのような形でテキストに現れ、またどのように機能しているかを分析していきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

鈴木 淳 『『カスターブリッジの町長』をセンセーション小説として読む - センセーション小説における女性主導のプロット - 』(査読有) 『ハーディ研究』(日本ハーディ協会会報) No.40 2014 pp. 20~36

〔学会発表〕(計 3 件)

鈴木 淳 「他者の願望のプロットとモノマニア的主人公 - ブラッドンを通してハーディ小説のセンセーション小説的要素を考察する - 」 日本ハーディ協会第 58 回大会(戸板女子短期大学・東京都)(2015 年 11 月 28 日)

鈴木 淳 「女性の願望を語る男性の物語 - センセーション小説における不安を抱えた男性主導のプロット - 」 日本英文学会第 87 回全国大会(立正大学品川キャンパス・東京都)(2015 年 5 月 24 日)

鈴木 淳 「物語の始まりはどこか? - センセーション小説における女性主導のプロット - 」 日本ハーディ協会第 56 回大会(茨城キリスト教大学・茨城県)(2013 年 10 月 26 日)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 淳 (SUZUKI, Jun)

東北工業大学・共通教育センター・准教授

研究者番号：10552755

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：